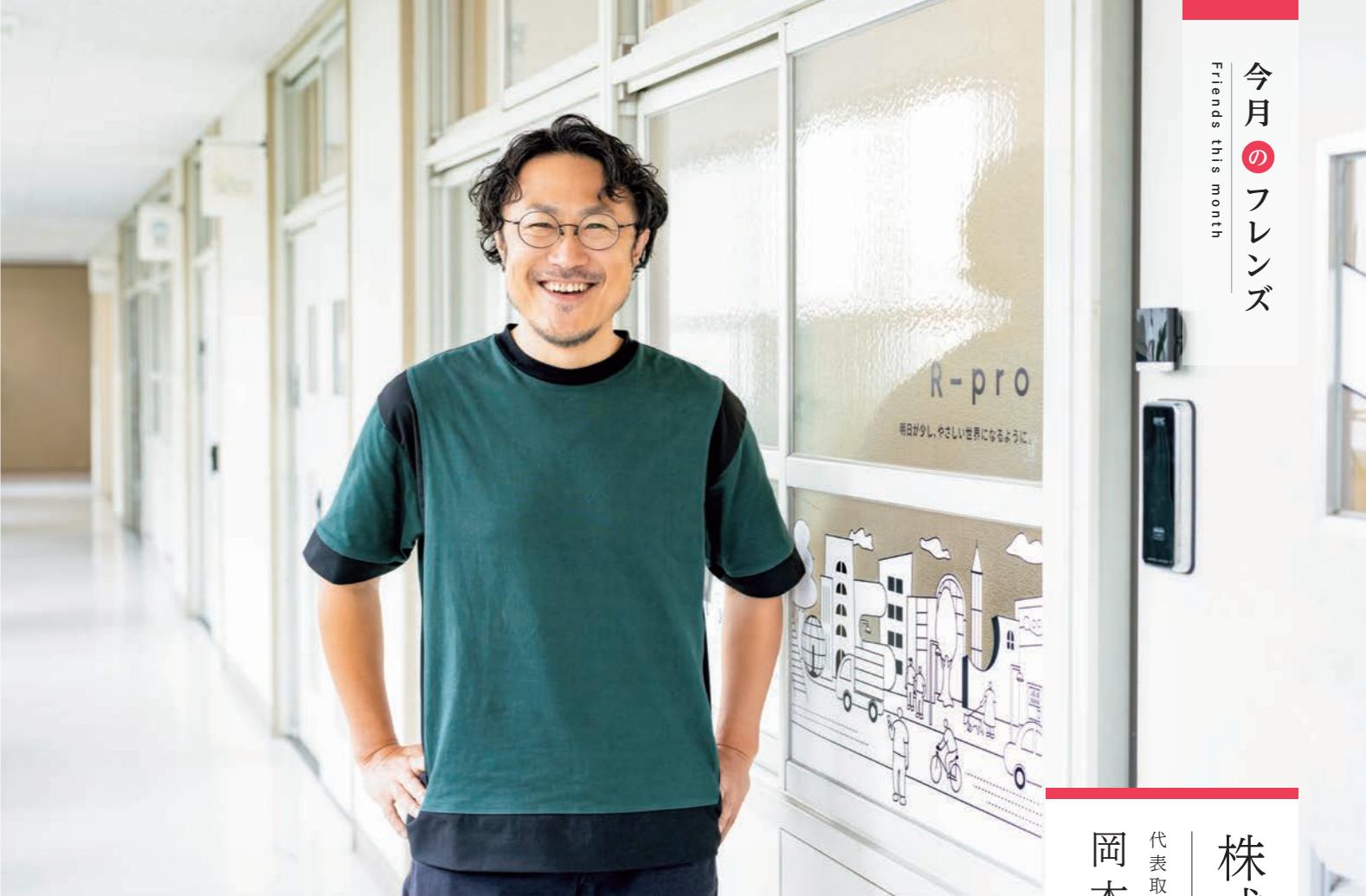


代表取締役・OKAMOTO NAOTO

## 岡本ナオトさん



明日が少し、やさしい世界になるように

社会課題の改善・解決や、  
欲しい未来の実現に向けて

当社は、平成21年（2009年）に創業し、社会が抱える課題の改善・解決を目的に、デザイン・ボウサイ・マチヅクリ・スポーツ・クラウドファンディングの5つの領域を中心に事業を開展してきました。最終的な成果物は、デザインの仕事になることも多いですが、「地域・社会貢献×ビジネス」という視点で、ビジョン策定のコンサルティングから、企画・コンテンツのプランニング、制作・クリエイティブ・デイレクションまで、依頼者に並走しながら、地域

共創による  
地域・社会貢献プロジェクト

具体的な事例として、日本赤十字社愛知県支部と共同開発した防災教材「いえます」「ころく」は、社会的に大きな反響がありました。これは地震発生後にどんなことが起こるのかを遊びながら学べるボードゲームですが、累計3,000個を販売し、41都道府県の小学校や学童など、主に小学生の防災教育に利用されています。



「いえます」「ころく」は、現在、WEBサイトからダウンロード版を無償配布しています（写真上）。ドルフィンズのラッピングが掲げられた円頓寺商店街（写真右下）です。クラウドファンディングは、地域活性化の原動力になる、「人の役に立ちたい」「何かやってみたい」という思いを具体的に応援できるツール。当社はCAMPFIRE社の公式パートナーとして、200件以上の支援実績があり、名商との共同プロジェクトも進行中です（写真左下）。

す。東日本大震災を経験し、防災という社会的な課題を、より身近で日常に溶け込んだ「ボウサイ」に変えていきたいという思いが具体的な形となり、日本全国に広がったことは、とてもうれしかったです。また、地元のプロバスケットボールチーム・名古屋ダイヤモンドドルフィンズの地域貢献プロジェクトも印象深い取り組みです。チームのロゴマークの制作からお付き合いが始まりましたが、当社の得意なマチヅクリでもお役に立ちたい、という思いがきました。西区にある円頓寺商店街との連携をコーディネートし、ホームタウンならぬホーム商店街と銘打ち、アーケードにチームフラッグを掲げ、選手が参加するピアゴーデンイベントなどを企画・開催しました。もともと、マチヅクリの領域は、「大ナゴヤ大学」の立ち上げに関わったことから仕事の幅を広げてきましたが、この取り組みでは、当社の得意領域である「スポーツ」を掛け合わせて、まちに人の流れをつくり、チームに対しては地域に密着しながら新たなファン層を開拓するきっかけを提供することができたと思います。

企業や団体が  
社会貢献を当たり前に  
事業に取り組むお手伝い

すべての企業・団体が社会に貢献していく世界の実現を目指し、ミッションやビジョンの策定をお手伝いするソーシャルコンサルティングサービスと、データを元に地域の課題にマッチした貢献活動を提案・共創するSDGsコンサルティングサービスを提供しています。

Company Data | 会社概要

R-pro

株式会社R-pro

【創業】2009年  
【所在地】名古屋市西区那古野2-14-1  
なごのキャンパス3-4  
【URL】<https://rpro4dp.com/>  
【事業内容】世の中にある社会課題の改善・解決を目指す  
クリエイティブカンパニー



社会が抱える課題は、身近なものはもとより、気候変動など地球規模にまで発展しています。事業規模に関わらず、すべての事業者は社会の課題解決を自社の中に据え、CSRや事業そのものに取り組むことが必須になる時代になりました。当

然、投資家や顧客・消費者に選ばれるためにも重要な要素です。

こうした社会の変化に合わせて、新規サービスを立ち上げました。ひとつは、これまでの経験やノウハウを活かして、企業のMVVM（企業が社会で果たすべき役割や実現したいこと、大切にする価値観や行動指針を言語化したもの）を策定するコンサルティングサービスです。事業承継や第二創業のタイミングで、次の時代を担う経営者・後継者とともに社会貢献をミッションや事業に取り入れるお手伝いをさせていただきます。さらに策定したMVVMを実行するチームづくりや事業開発などにも取り組む予定です。

また、最近ではスポーツが社会に与える影響力の大きさを実感する場面が多く、この分野でのサービスもリリースしました。すでにサッカー・バスケットボールのプロスポーツチームには、リーグから地域連合地域開発センターが発行する「地方自治体SDGs達成度評価データブック」の指標などを活用して、データを基に分析し、地域・社会への貢献度を可視化することで、より地域課題にマッチした組みも進んでいます。こうしたチームの活動が本当に地域に貢献できているかを、国際連合地域開発センターが発行する「地方自治体SDGs達成度評価データブック」の指標などを活用して、データを基に分析し、地域・社会への貢献度を可視化することで、より地域課題にマッチした組みも進んでいます。こうしたチームの活動が本当に地域に貢献できているかを、国